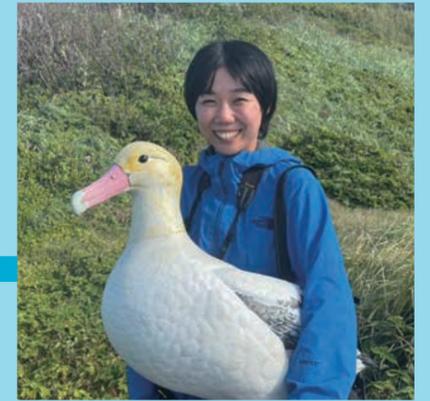


思いがけない発見が論文になることもある



自然・環境マネジメント研究部 生態研究グループ

太田 菜央

■求愛行動を観察しにきたはずだった

私はルリガシラセイキチョウ（瑠璃頭青輝鳥）と呼ばれる小鳥の求愛行動（歌とダンス）を研究しています。普段は飼育鳥を使って実験をするのですが、野外の行動も見ないとだめでしょう、ということで生息地のタンザニアに滞在したことがあります。行った時期は彼らの繁殖期で、求愛行動と同時に巣作りをしている様子も観察できました。また、ルリガシラセイキチョウ（オスの頭が青い）の近縁種で見た目も似ているセイキチョウ（オスの頬が赤い）を観察する機会も得られました。この2種は見た目も生態もよく似ていて、現地の人からは「行動はほとんど同じだよ」と言われました。私はその時は「そっかー」などと思い、特に深く考えていませんでした。ところが。

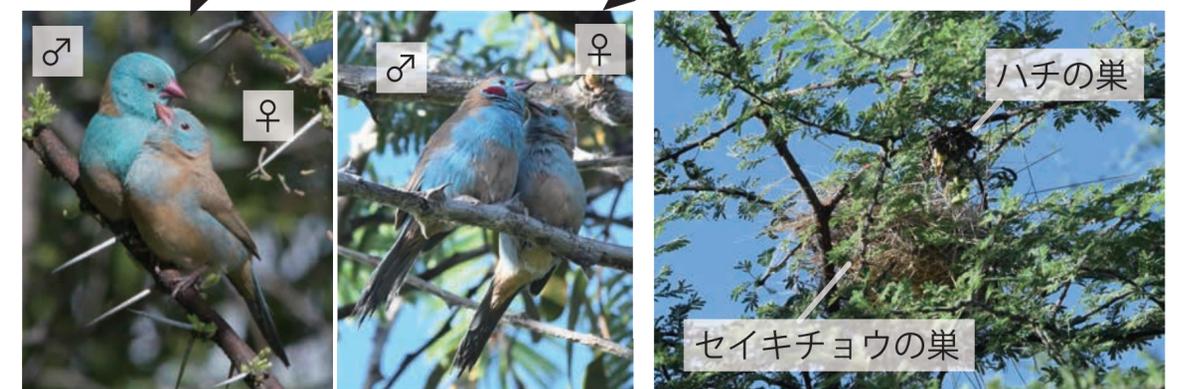
■巣作りの方法に種差があった

巣作りの様子や場所をよくよく観察してみると、2種で少しずつ異なることが分かりました。ルリガシラセイキチョウは巣が全体的にみっしりとしていて外側にはイネ科植物とは違う固い茎の植物を使っていたのに対し、セイキチョウの巣はなんとなくスカスカしています。ただし代わりの防衛手段なのか、セイキチョウはハチの巣の近くに巣作りしていることが多かったです。この発見は論文のネタになりました。思い込みに流されずじっくり観察してみると面白い発見があるものです。



ルリガシラセイキチョウの巣

セイキチョウの巣



上記2種は一夫一妻制で、巣作りも子育てもペアで行います。